

閉会中の調査報告

総務常任委員会

日 時 令和元年8月21日(水) 午前9時30分～10時54分

出席者 望月委員長、上野副委員長、赤祖父委員、小林委員、
松原議長

議事案件：事務事業評価について

前回7月17日の委員会の調査・審議を経て各委員が事前に提出した「事業チェックシート」に基づき、総務常任委員会としての「事業チェックシート」を作成する。

○コミュニティバス運行事業について

まず、各委員より、事業チェックシートの説明を受ける。

説明を整理すると、現在のコミュニティバス運行は、バス停まで遠かったり乗り換えの時間がかかったりと不満も多く、高齢者が今後一気に増加するという理由から、「2. 抜本の見直しをすべき」を行うべきとの評価が多かった。また、路線により利用者数が異なり、市民ニーズの分析を行い、効率の良い運行を実施すべきという理由から、「4. 市実施内容・規模見直し」という評価もあった。

委員からの主な意見としては、

- ・抜本的に見直すべきと考えるが、黒字路線等必要な部分も残しておきたい。
- ・少子高齢に向かっている以上、ドアツードアのデマンド型タクシーも当然必要となる。
- ・早急に取り組むべきと考え、現行で行われている事の検証も平行して行うべきと考える。
- ・当事業は、年間8千万円程度の補助金が必要。その割には不満が多く、バス停までの徒歩が辛いという高齢者が一気に増加する時代には、デマンド型交通が求められる。
- ・一端、バス路線を廃止し黒字路線だけ残し、残りを全てデマンド型にする抜本対策も考えるべき。
- ・総務常任委員会での先進地研修先は、業者へ委託している自治体が多い。湖南省もそうしても良いのではないか。
- ・顧客アンケートを実施し、その結果を受けて試算する事が必要である。そのためには、地域交通を一つの部署にして専門人員を配置すべき。
- ・当事業の補助金を減らして、その分をタクシー型に振り替えていく方向性を考える時期である。
- ・収益性が高いとはいえ、昨年度より約3%下がっている。補助金は8千万円を超えている。

- ・民間のタクシー業者、レンタカー業者と連携して抜本的に見直すべき。
- ・全体予算を超えない範囲で、市民ニーズにあった交通手段を構築するか、検討すべき。
- ・新庁舎に向けて、石部地先からの利便性向上、公共交通体制の確保。
- ・路線により、利用者数が異なる。市民ニーズの分析を行い、効率の良い運行（車両・時間・経路）を実施する
- ・滋賀バスには、過去のデータ・経験があり、どのような運行をするか一緒に検討して、自主性を持たせる。
- ・16台あるバスの内、市の助成が無い車両については、滋賀バスの裁量で車種を決める。（バス、マイクロバス、ワゴン車等）
- ・路線についても、便数・時間帯等を滋賀バスの裁量を重視して運行する。
- ・滋賀バスでは、運行出来ない路線・地域を明らかにし、その部分へ他社運行の導入。
- ・「コミュニティバス運行」の指定管理を目指す。

最終的に総務常任委員会のチェックシートのまとめとして、「2. 抜本的見直しをすべき」を行うべきとの評価にまとまった。

意見としては、

- ・顧客アンケートを実施し、その結果を受けて試算する事が必要である。そのためには、地域交通を一つの部署にして専門人員を配置すべき。
- ・路線により、利用者数が異なる。市民ニーズの分析を行い、効率の良い運行（車両・時間・経路）を実施する。
- ・滋賀バスの経験・ノウハウを活かして、デマンド交通の取り込みを推進。
- ・これらのことから、早急にデマンド交通を取り組むべきと考える。